

防災対策の基本=「自助・共助・公助」の連携

大災害の発生直後は、公的機関がすべての災害現場に対応することは不可能です。被害をなるべく最小限にするためには、**自らの命は自らが守る(自助)**ことを理解し、**自らのまちは自らが守る(共助)**につなげていくことが重要になります。

ポイント ✓阪神・淡路大震災の教訓から考える(1)

家屋の倒壊などで生き埋めになったり閉じ込められた住民の多くは、自力または家族や隣人などの地域住民によって救出されています。消防署などの公的機関によって救出されたのは全体のわずか2%でした。



自助 日ごろから家族で災害について話し合おう

家族で確認・共有しよう

- 非常持出品等の保管場所の確認
- 緊急時の家族の役割を確認(子供の引き取り、高齢者・病人の保護)
- 避難場所・避難経路、危険箇所の確認
- 家族が離ればなれになった時の集合場所
- 防災・災害情報の収集

非常持出品 裏表紙

マップ P12~

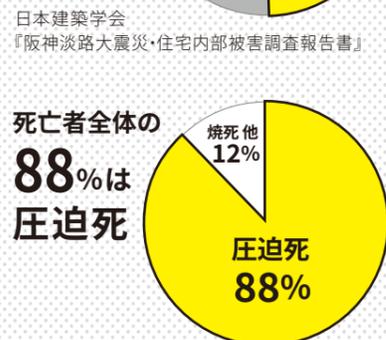
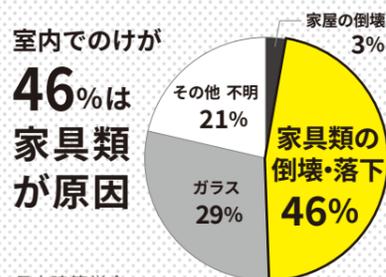
マップ P12~

防災 P11



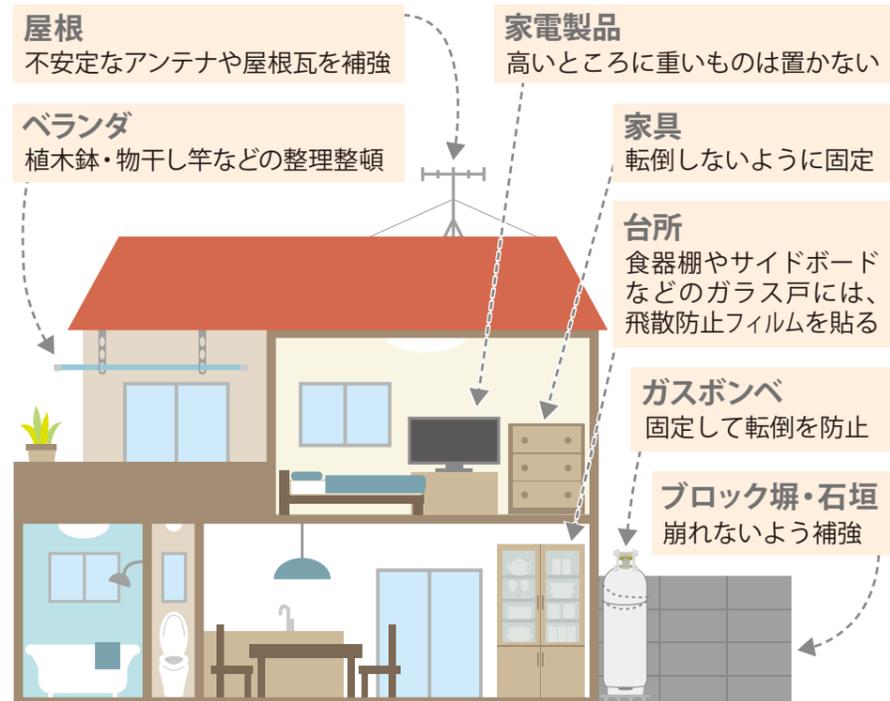
ポイント

✓阪神・淡路大震災の教訓から考える(2)



平成7年度版『警察白書』を参考に作成

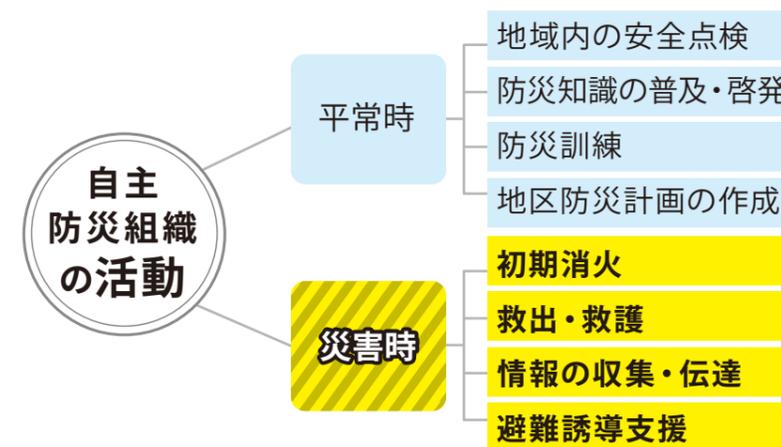
自宅の安全対策



地震保険、火災保険、家財保険の加入をおすすめします!

共助 地域のつながりを大切に

災害に強いコミュニティづくり



災害時に配慮が必要な人への支援

災害時には、皆さんの支援を必要とする人がいます。

- 高齢者や乳幼児**:
 - 支援者をあらかじめ決めておく
 - 複数で対応する
- 目の不自由な人**:
 - 声をかけ情報を伝える
 - 誘導する場合は腕を貸しゆっくりと歩く
- 車いすの人**:
 - 階段では2人以上必要
 - 段差、坂道がある場所は気をつける
- 病气やけがの人**:
 - 優しく声をかけ相手を安心させる
 - 程度に応じて援助する
- 耳の不自由な人**:
 - 口を大きく開けはっきり話す
 - 手話、身振り、筆談などで情報を伝える
- 外国の人** (外国語版 P49.50):
 - やさしい日本語で支援の意思を伝える
 - 身振り、手振りなどでコミュニケーションをとる

公助 市民のいのちと財産を守るために

予防対策

▶ 木造住宅耐震診断(無料)

以下の条件すべてに当てはまる場合、無料で耐震診断が受けられます。

- 昭和56(1981)年5月31日以前に着工
- 木造在来工法の平屋又は2階建て
- 個人所有の一戸建て住宅

診断の結果基準値以下なら

耐震改修工事費用を補助

耐震改修工事に直接かかる費用 **4** (80%)
以内の額
上限 **100万円** 補助
※一定の要件あり

【問合せ先】千曲市建設部建設課 建築監理係 026-273-1111

▶ 支援物資などの備蓄

毛布、パーテーション、水、食料品、土のうなど



応急対策

- ▶ 救助活動
- ▶ 避難所の開設
- ▶ 支援物資の提供
- ▶ 復旧・復興活動